



(注/上記画像は今年度文化祭でのパンフレットより3-5のアプローチをトリミングしたものです)

みなさんこんにちは！！これから3-5の上げばアピールをはじめます！！  
私たちは「私服の自由」について考えました。

まず、着目したのは、この「鴨沂の自由」というのはどういうものかということです。  
「自由」という言葉は本来、他から強制や命令をうけることなく、自分の思い通りにできることをいいます。  
では、「鴨沂の自由」とは、なにをしても自由ということなのでしょうか？

答えは否です。

「鴨沂の自由」それは、『表現や発信の自由』ということです。  
教師と生徒は教師と生徒である以前に人と人であり、その両者が力を合わせて学校を作っていく。そのための表現や言論は自由にすることができる。それが鴨沂の自由の根本です。  
そして「私服の自由」は『規則の中で自由を見つけ、そして個性を発揮する』ということです。

では、次にこの規則と個性について考えてみましょう。

スクリーンに注目してください。これは今の3年生が持っている生徒手帳の服装に関する校則です。1ページにも満たず、たった4行、項目にして2つのことが書かれています。

それに比べて、1. 2年生の持っている生徒手帳です。

- すべて学校指定品とする。
  - 4月及び11月～3月はジャケットを着用すること。
  - ジャケットを着用するときは、ネクタイまたはリボンを着用すること。
  - 入学式・卒業式・始業・終業式、その他の学校が特に指定した行事等の際には、カッターシャツは白色、ネクタイ・リボンはドット柄のものを着用すること。
  - 靴下は、黒・紺・グレー・白のいずれかで無地のもの(ワンポイント可)とする。
- なお、ルーズソックスやレッグウォーマーの着用は認めない。
- 靴は、革靴(ハイヒール・ブーツ・厚底靴は不可)または運動靴とする。
  - 厳寒期における登下校時については、ジャケットの上防寒用コート等を着てもよい。なお、その際も華美な服装や威圧感のある服装は避けること。
  - 健康上・身体上その他の理由で、特に上記以外の服装を必要とする場合は、担任に申し出て、生徒指導部の許可を得ること。
  - 身だしなみの乱れや着崩しにつながる制服の加工・変形は認めない。
  - 不必要な装飾品の着用も禁止する。
  - シャツの襟は第一ボタンまできちんと止める。
  - ネクタイ・リボンは、結び目が第一ボタンの上にくるように緩めず着用する。
  - ズボン・スカートのウエスト部は、腰骨上部とする。

- スカートの丈は、ウエスト部を巻き上げない。
- スカートの丈は、膝の真ん中から上端までの間とする。

今スクリーンに表示されていたものは省略して載せています。生徒手帳ではページ数4ページ程度のものになっています。

これが今現在の『自由』のための規則なのです。  
皆さんはこれを守らなければならないのです。

次に制服と私服についてみていきます。

制服と私服について1、2、3年生はどんな考えをもっているのかを調べるため、3年5組はランダムにクラスを選出しアンケートを実施しました。

そのアンケート結果がこちらです。1、2年生は65%近くが制服のほうがよいと考え、3年生は75%が私服がいいと答えました。

制服派の意見には「毎日服を選ぶのがめんどくさい」「高校生っぽい」「制服がかわいい」などといった意見が多くありました。

私服派の意見には「かたくなってよい」「楽であるのと気候にあわせられるから」「自由に選べるから」といった意見がありました。

こんなに様々な意見があるのは制服には制服の、私服には私服のよさがあることを表しているのです。

が、しかしこんな批判的な意見もありました。

「ラフな人はだらしく見える。」「大人との見分けがつきにくく、威圧感がある」「3年生が私服であることに不満などはありませんが、アクセサリやサンダルなど、違反が多いではありませんか？」

確かにだらしない格好やアクセサリなど規則の違反が見受けられることは、3年生は改善していかなければいけない点です。

厳しい意見をありがとうございます。

こちらは制服への批判意見です。

「制服は校則が厳しすぎて意味がわからんと思いました。別にパンツが見えるほど短くするわけでもないのに今の長さはほんまにありえないです!!」

「制服だと女子がズボンをはいていたらダメみたいな感じで嫌。女子だってズボンを履きたい!」

「いいと思うけど1、2年からしたらちょっと嫉妬心がある。3年は注意されへんに自分らは注意されるから」「可愛いのが2年と1年とのスカートだけの違いが気に食わない」

このように制服の規則に対して不満をもつ生徒も少なくないようです。

学校側はこれをどう思うのでしょうか。

さて、ここで休憩がてら、今日の三年生の私服を紹介します。

(注-パワーポイントにて今日の私服姿の3年生在校生らのスナップ写真及び昨年に旧校舎にて行われた際の卒業生らのスナップ写真)

本題に戻り、今度は鴨沂の伝統の卒業式を紹介したいと思います。

鴨沂の卒業式も自由な格好で出席するものでした。

これは去年度、卒業された先輩たちの写真です。

とても華やかだと思いませんか？

自分の門出を自分の好きな格好で迎えられるのです。

色とりどりの着物や袴、ビシッと決めたスーツなど、自分を最大限に表現できる服装に身を包んだ先輩方の卒業式は、本当に迫力のあるものでした。

卒業式の服装は三年間の個性の集大成なのかもしれません。

私服だからこそ過ごせる大切な時間がきっとあります。

私たち現3年生の卒業式もそんな素晴らしいものにしたいと思っています。

鴨沂の卒業式を見たことがない1年生2年生はぜひ参加してほしいです。

そして最後になりましたが

最後に私服世代の私たちが伝えたいことを聞いてください。

1年生、2年生に私服の自由はありません。

鴨沂の自由の一部がないのです。

そして私たちは私服最後の世代になってしまいました。

私たちは自分たちが着ている私服に誇りを持っています

ある人は毎日ジャージで登校し、ある人はおしゃれな洋服を着、ある人はなんちゃって制服と私服を着まわす。

そういった違いが個性となり、その個性が鴨沂の色となっていました。

しかしそれももうなくなります。

最後の私服の私たちが卒業した後も鴨沂が鴨沂であるためには

鴨沂の自由を守っていかなければなりません。

「鴨沂の自由」それは、『表現や発信の自由』であり、

教師と生徒がともに学校を作っていくための自由です。

そして「私服の自由」は『規則の中で自由を見つけ、そして個性を発揮する』ということです。

これから鴨沂を作っていくのは後輩のあなたたちです。

5年後10年後、鴨沂が変わらず、個性の色とりどりの学校であることを願っています。